

教育研究業績書

2020年10月27日

所属：幼児教育学科

資格：准教授

氏名：小尾 麻希子

研究分野	研究内容のキーワード
幼児教育学, 保育学	幼児教育カリキュラム, 幼稚園教育実践史, 保育実践研究, 保育内容指導法, 保育者養成教育
学位	最終学歴
修士 (学術)	神戸大学大学院総合人間科学研究科人間発達科学専攻博士前期課程修了

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要

1 教育方法の実践例		
1. 遊びの構想から指導計画の立案とその検証に至るまでの連続的な学習過程の構築	2019年04月～現在	保育のねらいに基づいた遊びの構想から教材研究・教材作成、指導計画の立案とその検証に至るまでの連続的な学習過程を構築し、学生の保育構想力・実践力の育成に向けた授業を展開している。 (保育内容「人間関係」・「教育・保育課程総論」)
2. グループ学習を取り入れた課題探究型授業の構築	2017年04月～現在	グループ学習による調査・資料作成・発表・討議等を取り入れた課題探究型授業を構築している。 (「保育内容総論」・「学級担任論(幼)」)
3. フィールドにおける観察調査からの学習	2014年04月～現在	学生自身で幼児の遊びを観察し、記録をとることから、幼児理解や教師の行う援助方法について学びを深める学習過程を位置づけている。 (「教育実習指導(幼)」・「教育演習」)
4. 総合的な遊びの構想から指導計画の立案、模擬保育の実施及びその実践の振り返りに至るまでの連続的な学習過程の構築	2014年04月～現在	長期指導計画のねらいに基づいた総合的な遊びの構想から教材研究・教材作成・短期指導計画作成・模擬保育の実施とその振り返りに至るまでの連続的な学習過程を位置づけ、学生の保育構想力や実践力の向上へとつながる授業を実践している。 (「教育演習」・「幼児教育実践演習」)
5. フィールドにおける調査結果に基づいた研究資料の作成と研究協力園へのフィードバック	2014年04月～現在	市内の公立・私立幼稚園における継続的な保育観察を通して、協同的な遊び及びその遊びの過程に働きかける教師の役割について学ぶ機会を設けている。観察記録に基づいて討議した後、考察した事項を研究資料としてまとめ、その学習成果は、武庫川女子大学教育研究会研究発表会において発表している。また、研究協力園の園長・教員にフィードバックし、助言を得て、次年度の卒業研究へとつなげている。 (「教育演習」)
6. 実践映像・写真・パワーポイント等の視聴覚教材を活用した学習過程の構築	2014年04月～現在	授業のテーマに沿った実践映像や写真、パワーポイント等の視聴覚教材を活用し、保育実践の場における幼児の姿や環境構成、援助方法などを具体的に解説している。また、その実践映像等を手がかりとして、学生自らが保育に対する学びを深めていく学習過程を構築している。 (「保育内容総論」他授業全般)

2 作成した教科書、教材		
1. 幼児教育指導計画集Ⅲ－絵本を活用した造形遊びの創造－	2019年07月	2019年度「教育・保育課程総論」の授業において受講学生が構想・作成した指導計画と教員による解説を収録した指導計画集である。造形遊びへと深めていく絵本について調査し、教材研究及び教材作成を経て立案した指導計画として、当該授業受講学生の他の授業においても活用している。
2. 幼児教育指導計画集Ⅱ－深い学びの過程を実現する保育展開－	2019年02月	2018年度「幼児教育実践演習」の授業において受講学生が構想・作成した指導計画と教員による解説を収録した指導計画集である。深い学びの過程を実現する保育展開について学習し、学生の協働によって構想を練り、作成した指導計画として、他の授業や幼稚園教育実習指導においても活用している。
3. 演習形式でわかりやすく学ぶ「幼稚園教育要領」の要点－平成29年3月告示「幼稚園教育要領」準拠－	2018年03月	改訂された「幼稚園教育要領」の要点及びその要点に関連する演習問題を掲げて、養成校の授業における参考書として有効に活用されるように構成したものである。「幼稚園教育要領」の役割、「幼稚園教育要領」等の変遷、平成29年3月告示「幼稚園教育要領」改訂の基本方針と改訂の背景、「幼稚園教育要領」に示された幼稚園教育の基本、幼稚園教育において育みたい資質・能力及び「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」、各領域に示された「ねらい及び内容」の考え方及び教育内容の改善・充実の方向性について執筆した。 (一藝社発行 単著 全54頁)
4. 幼児教育指導計画集Ⅰ	2017年08月	2017年度「学級担任論(幼)」の授業において受講学生が構想・作成した指導計画と教員による解説を収録した指導計画集である。幼児一人一人のイメージを協同的な遊びへと深める保育について学習し、学生の協働によって構想を練り、作成した指導計画として、他の授業や幼稚園教育実習指導においても活用している。

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
2 作成した教科書、教材		
5. 兵庫教育大学教材文化資料館「3歳児保育指導案」	2007年03月	平成18年度兵庫教育大学附属幼稚園3歳児学級担任時に作成・実践した指導案2編を兵庫教育大学教材文化資料館にて所蔵・公開している。
6. 平成18年度版「3歳児から5歳児の教育課程・指導計画」	2007年03月	平成18年度兵庫教育大学附属幼稚園における3歳児から5歳児の教育課程・指導計画を全52頁に著した。3歳児の年間指導計画、月別指導計画（4月～3月）、週指導計画1編を執筆した。園内研究はもとより、附属幼稚園教員による授業及び実地教育指導においても活用した。 （兵庫教育大学附属幼稚園）
7. 平成17年度版「3歳児から5歳児の教育課程・指導計画」	2006年03月	平成17年度兵庫教育大学附属幼稚園における3歳児から5歳児の教育課程・指導計画を全52頁に著した。4歳児の年間指導計画、月別指導計画（4月～3月）、週指導計画1編を執筆した。園内研究はもとより、附属幼稚園教員による授業及び実地教育指導においても活用した。 （兵庫教育大学附属幼稚園）
8. 平成16年度版「3歳児から5歳児の教育課程・指導計画」	2005年03月	平成16年度兵庫教育大学附属幼稚園における3歳児から5歳児の教育課程・指導計画を全52頁に著した。5歳児の年間指導計画、月別指導計画（4月～3月）、週指導計画1編を執筆した。園内研究はもとより、附属幼稚園教員による授業及び実地教育指導においても活用した。 （兵庫教育大学附属幼稚園）
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1. 府立高等学校授業（課題研究）への協力	2020年度～現在	府立高等学校授業（課題研究）において、子どもの遊びや幼児教育に関する研究を進めている生徒への講話や助言を行っている。
2. 高大連携授業	2016年09月	高大連携の一環として、武庫川女子大学附属高等学校3年生ELコース45名の生徒を対処とした授業を2回にわたって実施した。保育実践事例や実践映像を提示しつつ、幼児期の遊びとその遊びの中で育まれていく幼児の育ちについて講話した。
3. 授業外における学生支援：幼稚園教育実習・保育実習に係る学生支援	2014年04月～現在	幼稚園教育実習・保育実習に係る学生支援として、実習に向けた準備や実習記録の書き方、指導実習に関する教材研究・教材作成・指導計画の作成等を個別に指導している。学生一人一人の状況に応じた助言と支援に努めている。
4. 授業外における学生支援：幼稚園教員・保育士採用選考試験に係る学生支援	2014年04月～現在	幼稚園教員・保育士採用選考試験に係る学生支援として、希望学生に受験対策指導や各自治体の2次試験に向けた指導を行っている。また、特別学期には、幼稚園教員・保育士採用試験対策講座を開催し、各自治体の採用試験の傾向と対策について講話するとともに、面接や実技試験、模擬保育等に関する指導を行っている。
4 その他		
1. 他大学教員との授業研究（日本乳幼児教育・保育者養成学会（保育教諭養成課程研究会） 授業方法・授業展開部会における授業研究）	2017年07月～現在	他大学教員との共同で、保育専攻学生の専門的技術や意欲態度の育成に向けた授業研究を行い、授業の改善と向上に努めている。2019年度からは科学研究費補助金（基盤研究(C)）の助成を受けて研究を進めている。
2. オープンキャンパスにおける模擬授業	2014年04月～現在	オープンキャンパスにおいて、「保育に生きる教材作成体験」、「幼児期の豊かな遊びと保育者の役割」と題して模擬授業を行った。イメージしたことを幼児自身で創意工夫しながら作成していく「しかけ絵本」作りの実践やその意義を伝えるとともに、実際に絵本作りを体験できるようにした。2019年度は、実践映像を提示しつつ、幼児期の遊びの意味やその遊びを豊かに引き出していく保育者の役割について講話した。

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1 資格、免許		
1. 幼稚園教諭専修免許状		
2. 小学校教諭専修免許状		
3. 保育士資格		
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1. 県立高等学校進路ガイダンスにおける講話	2020年10月	兵庫県立高等学校2年生を対象とした進路ガイダンスの講師を務めた。幼児教育・保育に関する学科への進学を希望している生徒を対象に、本学科での学びや進学の意義、資格取得と就職状況、幼稚園教諭・保育士の職務内容やその魅力等について講話した。
2. 宝塚市立幼稚園園内研究会講師	2020年度～現在	研究保育参観、指導助言
3. 三田市立幼稚園園内研究会講師	2019年10月07日	主催：三田市立松が丘幼稚園 研究保育参観、指導助言「幼児の主体的な学び・環境構成・教師の援助・指導計画」 （於：三田市立松が丘幼稚園）

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
4. 川西市立幼稚園教育研究会講師	2019年01月21日	主催：川西市教育委員会・川西市立幼稚園長会 研究保育参観、指導助言「幼児の学びの過程と環境構成・教師の援助・指導計画③」 (於：川西市立川西北幼稚園)
5. 川西市立幼稚園園内研究会講師	2018年12月10日	主催：川西市立川西北幼稚園 研究保育参観、指導助言「幼児の学びの過程・環境構成・教師の援助・指導計画②」 (於：川西市立川西北幼稚園)
6. 川西市立幼稚園園内研究会講師	2018年11月12日	主催：川西市立川西北幼稚園 研究保育参観、指導助言「幼児の学びの過程・環境構成・教師の援助・指導計画①」 (於：川西市立川西北幼稚園)
7. 三重県四日市市立幼稚園幼児教育研究会北部ブロック	2018年10月12日	主催：四日市市立幼稚園長会・四日市市立幼稚園幼児教育研究会 講話「幼児教育における主体的・対話的で深い学びとはー保育の原点に立ち返って考えるー」 (於：四日市市立保々幼稚園)
8. 三田市立幼稚園園内研究会講師	2018年10月08日	主催：三田市立松が丘幼稚園 研究保育参観、指導助言「協同する経験・環境構成・教師の援助・指導計画」 (於：三田市立松が丘幼稚園)
9. 川西市立幼稚園教育研究会講師	2018年08月28日	主催：川西市教育委員会・川西市立幼稚園長会 指導助言「研究主題に基づいたエピソード記録の書き方・分析方法、実践を深めるための具体的方法」 (於：川西市立川西幼稚園)
10. 川西市立幼稚園教育研究会講師	2018年07月23日	主催：川西市教育委員会・川西市立幼稚園長会 指導助言「研究主題の設定及び各幼稚園における園内研究の進め方」 講話「子どもの育ちと学びの過程を可視化させる実践・研究へのアプローチ」(於：川西市立川西幼稚園)
11. 幼保連携型認定こども園園内研究会講師	2018年04月～現在	神戸市内私立幼保連携型認定こども園における園内研究に継続的に関わり、指導助言を行っている。「豊かな感性と表現を育む保育の創造」と題する研究テーマに基づく研究保育を観察した後、保育環境、保育者の役割、園内研究の進め方等について指導助言を行っている。 (年間6回程度)
12. 平成29年度関西幼稚園・こども園連合会教育研究大会(奈良大会)講師	2017年11月18日	主催：関西幼稚園・こども園連合会教育研究会 研究発表会全体会指導助言(於：やまと郡山城ホール) 2018年3月告示「幼稚園教育要領」等の改訂の趣旨を踏まえつつ、研究発表会全体会における3園からの研究発表に対する指導助言を行った。
13. 武庫川女子大学附属幼稚園園内研究会講師	2017年08月～現在	2017年度は、2018年3月告示「幼稚園教育要領」に対応する教育課程の編成に関する指導助言を行うとともに、教育課程及び月の指導計画を附属幼稚園教員との共同で作成した。2019年度からは、実践記録のとり方や考察方法に関する指導助言を行うとともに、教育課程・指導計画の見直しを共同で進めている。
14. 府立高等学校進路ガイダンスにおける講話	2017年06月	大阪府立高等学校1年生を対象とした進路ガイダンスの講師を務めた。幼稚園教諭としての体験に基づいて、幼稚園教諭及び保育士の職務内容やその魅力について講話した。
15. 文部科学省指定研究開発「幼稚園における親育てプログラムとその評価システムに関する研究開発」	2006年04月～2007年03月	文部科学省研究開発指定校として、幼稚園における「親育てプログラム」及びその「評価システム」を開発し、実践化させた。保護者の保育参加、子育て講演会、子育て相談等から、同プログラムを構成。その評価システムとして、保護者の子育て意識の変容を捉える指標を作成。研究の成果は、後掲の「文部科学省研究開発実施報告書」としてまとめ、文部科学省へ提出した。 (兵庫教育大学附属幼稚園)
16. 文部科学省海外派遣「国際的な視野・識見を有する中核的教員を育成するための海外派遣研修(派遣先：フィンランド・スウェーデン)」	2005年11月	文部科学省海外派遣研修において、フィンランド・スウェーデンの就学前教育や初・中・高等教育・特別支援教育の実情を視察。視察内容に基づいて研究報告書を作成し、文部科学省へ提出した。
17. 文部科学省「幼稚園教育課程協議会」中央協議会研究発表	2004年11月	平成16年度文部科学省「幼稚園教育課程協議会」中央協議会において、兵庫県代表として研究発表を行った。協議会主題C「感じたこと、考えたことを音や動きで表現したり、自由にかいたりつくったりする物的・空間的環境の構成」について発表。発表の要旨は、後掲の「教育課程協議会研究成果の要旨集」に記載している。
4 その他		
1. 学校教育センター委員	2018年04月～2020年03月	教育学科学校教育センター委員として、教員免許・保育士資格取得のための履修指導・判定・調査、実習の履修やガイダンスに関する学生指導、採用試験に関する学生指導、学科との連絡調整、学校教育センターとの連絡調整等を行った。
2. 武庫川女子大学附属幼稚園の研究活動への参画と	2017年08月～現在	2017年度より、附属幼稚園の研究活動に参画し、2018年3

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
4 その他		
協力		月告示「幼稚園教育要領」に対応する教育課程及び指導計画を共同で作成した。作成した教育課程・指導計画は「武庫川女子大学附属幼稚園研究紀要第1集 平成30年度教育課程・指導計画」として刊行した。2019年度は、附属幼稚園において研究テーマを掲げ、遊びの中における幼児の姿を記録・考察し、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」に向かう過程について研究を進めている。また、そこで明らかにされたことを教育課程・指導計画に反映させ、カリキュラム・マネジメントを共同で進めている。さらに、研究保育の観察及び事後研究会への参加を通して、附属幼稚園の教員と共に保育実践のより一層の向上に向けた取組を行っている。
3. 武庫川女子大学附属幼稚園の教育活動への参画と協力	2017年04月～現在	附属幼稚園オープンデーにおける有志学生によるペープサートの上演や保育補助など、附属幼稚園の教育活動に参画・協力する形で連携を図っている。また、附属幼稚園での活動は、学生の実践力向上につながる場として、学生への助言や支援にも努めている。
4. 学生委員	2015年04月～2017年03月	短期大学部幼児教育学科の幹事会の運営や学友会活動に関わる学生指導・支援、その他、学生生活全般に関わる支援を行った。
5. 附属幼稚園運営委員会委員	2015年04月～現在	附属幼稚園運営委員会委員として、附属幼稚園の運営に関わる協議に携わっている。

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
1. 探究する保育内容総論－事例で学びを深める－	共	2021年08月 刊行予定	株式会社 みらい	保育内容の考え方やその実践について、実践事例に基づいて解説した文献である。保育理論の理解だけでなく、保育実践に役立つことを目指して編集された文献。第2章「5領域と保育内容」を執筆。「現代社会において求められる資質・能力と幼児期の教育・保育の基本」「幼稚園教育要領等における5領域と保育内容の考え方」「子どもの遊びのなかにみる5領域と保育内容」について論じた。
2. 改訂 表現者を育てるための保育内容「音楽表現」－音遊びから音楽表現へ－	共	2021年03月 刊行予定	教育情報出版	2020年3月発行の保育内容「表現者を育てるための保育内容「音楽表現」－音遊びから音楽表現へ－」の改訂版（重版による改訂）。第1章 第2節「領域「表現」のねらいと内容」、第3節「他領域との関連を考える」を執筆。
3. 表現者を育てるための保育内容「音楽表現」－音遊びから音楽表現へ－	共	2020年03月	教育情報出版	「幼稚園教育要領」等に示された領域「表現」の考え方と音楽的表現の指導方法について述べた文献である。第1章 第2節「領域「表現」のねらいと内容」、第3節「他領域との関連を考える」を執筆。領域「表現」のねらいと内容、他領域との関連について、筆者の実践した事例を提示しつつ解説した。 編著者：石井玲子 執筆：石井玲子・板野晴子・伊原木幸馬・今井由恵・植田恵理子・内山尚美・小尾麻希子他43名 (全166頁 第1章 第2節「領域「表現」のねらいと内容」、第3節「他領域との関連を考える」3-6頁執筆)
4. 新版 保育内容総論（第2刷）	共	2019年03月	一藝社	2018年3月発行「新版 保育内容総論」の第2刷。第13章「5歳児の保育内容」を執筆。（監修：谷田貝公昭・石橋哲成）
5. 新版 教育・保育課程論（第2刷）	共	2019年03月	一藝社	2018年3月発行「新版 教育・保育課程論」の第2刷。第5章「幼稚園における教育課程と指導計画」を執筆。（監修：谷田貝公昭・石橋哲成）
6. 改訂新版 保育用語辞典	共	2019年03月	一藝社	幼児教育・保育に関して理解しておきたい伝統的な用語はもとより、新しく告示された・制度の改正を踏まえた新しい用語まで、保育者のための基本用語を収録した辞典である。「幼稚園教育要領」等に示されている言葉の獲得に関する領域「言葉」について解説した。 編集委員代表：谷田貝公昭 共著者多数のため記載不可能 (全482頁 「言葉（領域）」の項目147頁執筆)
7. 保育をめぐる諸問題Ⅱ	共	2019年02月	一藝社	現代保育内容研究シリーズ4。子供を取り巻く現代社会の問題に目を向け、保育の質の維持・向上に向かう取組・課題・展望について論じた保育専門書である。第6章「主体的・対話的で深い学びを育む保育実践の探究」を執筆した。質の高い保育とはどのような実践の過程に創出されるのか、「主体的・対話的で深い学び」の過程に焦点を当てて論じた。 編者：現代保育問題研究会 執筆：小尾麻希子・齋藤恵子・佐久間美智雄・中尾泰斗・西田希・橋本樹・谷田貝円 (全138頁 第6章「主体的・対話的で深い学びを育む

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
1 著書				
8. 新版 教育・保育課程論（平成29年3月告示「幼稚園教育要領」等準拠）	共	2018年03月	一藝社	保育実践の探究」77-89頁執筆） 幼稚園や認定こども園等における教育課程・指導計画作成の意義や作成にあたっての基本的な考え方、保育の質を高める計画と評価等について記した文献である。第5章「幼稚園における教育課程と指導計画」を執筆した。幼稚園において教育課程を編成する際の原則と作成上の留意点、教育課程の実際、指導計画の実際と作成方法等について述べた。 監修：谷田貝公昭・石橋哲成 編著者：大沢裕・高橋弥生 執筆：高橋弥生・大沢裕・小尾麻希子・岸優子・澤田裕之・田村佳世他9名 （全146頁 第5章「幼稚園における教育課程と指導計画」45-53頁執筆）
9. 演習形式でわかりやすく学ぶ「幼稚園教育要領」の要点—平成29年3月告示「幼稚園教育要領」準拠—（再掲）	単	2018年03月	一藝社	改訂された「幼稚園教育要領」の要点及びその要点に関連する演習問題を掲げて、養成校の授業における参考書として有効に活用されるように構成したものである。「幼稚園教育要領」の役割、「幼稚園教育要領」改訂の基本方針と改訂の背景、「幼稚園教育要領」に示された幼稚園教育の基本、幼稚園教育において育みたい資質・能力及び「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」、各領域に示された「ねらい及び内容」の考え方及び教育内容の改善・充実の方向性について執筆した。（全54頁）
10. 新版 保育内容総論（平成29年3月告示「幼稚園教育要領」等準拠）	共	2018年03月	一藝社	保育内容の基本的な考え方や保育内容の歴史、幼児の発達と保育内容、個と集団の育ちを見据えた保育内容、保育者が指導する事項等について述べた文献である。第13章「5歳児の保育内容」を執筆した。5歳児の運動的側面・言葉及び思考力・人間関係の発達を提示しつつ、その発達の特性に応じた保育内容とその実際について論じた。 監修：谷田貝公昭・石橋哲成 編著者：大沢裕・高橋弥生 執筆：高橋弥生・大沢裕・石山あづ美・五十嵐紗織・大槻千秋・小尾麻希子他9名 （全146頁 第13章「5歳児の保育内容」117-125頁執筆）
11. 新版 保育者論（平成29年3月告示「幼稚園教育要領」等準拠）	共	2018年03月	一藝社	保育者としての資質や専門性、保育者の歴史、保育者の研修・服務、保育者と法令等について述べた文献である。第10章「現代における望ましい保育者像」を執筆した。保育者として必要な資質・幼児理解・保育を創造する力・遊びを総合的に指導する実践力・保育を省察力について論じた。 監修：谷田貝公昭・石橋哲成 編著者：谷田貝公昭 執筆：谷田貝公昭・新山裕之・小尾麻希子・金眞紀子・工藤ゆかり・齋藤崇他8名 （全155頁 第10章「現代における望ましい保育者像」94-102頁執筆）
12. 現代保育論	共	2017年11月	一藝社	現代保育内容研究シリーズ1。「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の改訂内容を踏まえ、現代保育の諸問題を保育者の専門性・カリキュラム・保育内容と教材・諸外国の事例等から、保育実践の本来のあり方を追求した保育専門書である。第6章「実践の場で活用できる保育教材研究」を執筆。領域「環境」のねらい及び内容に焦点を当てた保育教材とその保育教材を活用した幼児の協同的な遊びを事例として、現代保育に求められる保育内容と保育教材について論じた。 編者：現代保育問題研究会 執筆：大倉眞壽美・小尾麻希子・小山貴博・佐久間美智雄・杉山喜美恵他5名（全144頁 第6章「実践の場で活用できる保育教材研究」62-71頁執筆）
13. 保育内容総論（初版第2刷）	共	2017年09月	一藝社	2017年2月発行コンパクト版保育者養成シリーズ「保育内容総論」初版の第2刷（監修：谷田貝公昭・石橋哲成）
14. コンパクト版保育者養成シリーズ「教育・保育課程論」	共	2017年03月	一藝社	幼稚園・保育所・児童福祉施設における教育課程・保育課程・指導計画の意義・作成方法・作成するにあたっての留意点などについて論じた文献である。第5章「幼稚園における教育課程と指導計画」を執筆。「幼稚園教育要領」と教育課程の関係性、指導計画の意義、指導計画の実際と作成上の留意点に焦点を当てて論じた。 監修：谷田貝公昭・石橋哲成 編著者：高橋弥生・大沢裕 執筆：高橋弥生・大沢裕・小尾麻希子・岸優子・澤田裕之・田村佳世他9名

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
1 著書				
15. コンパクト版保育者養成シリーズ 「保育内容総論」	共	2017年02月	一藝社	(全146頁 第5章「幼稚園における教育課程と指導計画」45-53頁執筆) 幼稚園・保育所における保育内容の歴史、保育内容を考える視点とその評価、乳幼児の発達に応じた保育内容など、保育内容全般について解説した文献である。第13章「5歳児の保育内容」を執筆した。5歳児の生活と保育内容との関係性、運動的側面・言葉及び思考力の芽生え・人間関係発達の側面と保育内容との関係性より、5歳児にふさわしい保育内容について論じた。 監修：谷田貝公昭・石橋哲成 編著者：高橋弥生・大沢裕 執筆者：高橋弥生・大沢裕・石山みづ美・五十嵐紗織・大槻千秋・小尾麻希子他9名 (全146頁 第13章「5歳児の保育内容」117-125頁執筆)
16. コンパクト版保育者養成シリーズ 「保育者論」	共	2016年03月	一藝社	保育者の制度的な位置づけ、倫理感、役割と専門性、協働と専門職的成長について述べた文献である。第10章「現代における望ましい保育者像」を執筆した。「幼稚園教育要領」に示されている保育者像、筆者によるアンケート調査結果より得られた経験年数・立場によって相違する「望ましい保育者像」及び保育者の専門職的成長プロセスについて論じた。 監修：谷田貝公昭・石橋哲成 編著者：谷田貝公昭 執筆者：谷田貝公昭・新山裕之・小尾麻希子・金眞紀子・工藤ゆかり・齋藤崇他8名 (全155頁 第10章「現代における望ましい保育者像」94-102頁執筆)
17. 教育学科への招待	共	2015年04月	武庫川女子大学出版部	PART II 保育・幼児教育・社会福祉・特別支援、01「幼児教育の原点」を執筆した。日本において最初に設立された東京女子師範学校附属幼稚園の創立から昭和初期にかけての保育内容と、主事を務めた倉橋惣三の保育論を取り上げ、現代の幼児教育の原点となった実践と理論について述べた。監修：武庫川女子大学文学部教育学科 (44-47頁「幼児教育の原点」を執筆)
18. MINERVA保育実践講座第16巻「子育て支援の理論と実践」	共	2013年01月	ミネルヴァ書房	子育て支援の理念及び目的、歴史文化的諸相、幼稚園、保育所、子育て支援センター、地域における子育て支援の取り組みと実践例、子育て支援の効果及び課題、子育て支援の展望について著した文献である。第3章第1節幼稚園における「子育て支援」の概要を執筆。幼稚園における子育て支援の目的・方法・具体的事例について述べた。 編者：子育て支援プロジェクト研究会 執筆者：名須川知子・高橋一枝・小尾麻希子他11名 (全176頁 第3章第1節 幼稚園における「子育て支援」の概要29-33頁執筆)
2 学位論文				
3 学術論文				
1. 「保育要領」刊行後の徳島大学学芸学部附属幼稚園において推進された研究活動—単元「幼稚園の新しいおうち」の計画作成に至るまでを中心に— (査読付論文)	単	2021年08月 掲載確定	『保育学研究』第59巻 第1号 日本保育学会	1954年の徳島大学学芸学部附属幼稚園において作成された単元「幼稚園の新しいおうち」の計画が、どのような研究活動上に出された計画であったのかを、その当時の実践的資料に基づいて明らかにした。 (JSPS科研費JP19K02635による助成を受けた研究)
2. 戦後日本の幼稚園カリキュラムに関する研究の動向—日本保育学会年次大会における研究発表を中心に—	単	2020年03月	『教育学研究紀要』 第65巻 393-398頁 中国四国教育学会	「保育要領」刊行の1948年から1964年版「幼稚園教育要領」刊行へと至る時期の日本保育学会年次大会における研究発表に基づいて、戦後日本の幼稚園カリキュラムに関する研究の動向を明らかにした。 (JSPS科研費JP19K02635による助成を受けた研究)
3. 戦後教育改革期IFELの示唆した幼稚園カリキュラム開発 (査読付論文)	単	2020年03月	『教育学研究論集』 第15号 49-57頁 武庫川女子大学大学院 文学研究科教育学専攻	教育指導者を対象とした戦後最大規模の講習「教育指導者講習」(IFEL)の第5期・第6期に開催された幼稚園教育班・幼年教育班の講習内容の中から幼稚園のカリキュラムに関する内容に焦点を当て、IFELがわが国の幼稚園カリキュラムの開発にどのような示唆を与えたのかを明らかにすることを目的とした。IFELの示唆した点は、(1)カリキュラム開発の基礎となる子どもの発達のアウトラインとその発達の特徴に関する理解、(2)子どもの実際の姿に基づいた実証的・実践的な研究の実施、(3)幼稚園・保育所・小学校低学年の一貫した幼年教育カリキュラムの開発、(4)日本の子どもに必要な教育の目標の選定とその達成に向かう望ましい経験内容の解明、(5)子どもの生活に立脚した経験内容の組織と目的活動を中心とした一日の生活の構築にあった。この目的活動を中心とした生活は自由遊びを基調とした「保育要領」

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
4. 継続的な保育観察に基づいた学生の学びとその可能性―「協同的な遊び」に対する捉え方の変容を中心に―	単	2019年08月	『関西教育学会年報』第43号 141-145頁 関西教育学会	の趣旨と相違するものであることを指摘した。 (JSPS科研費JP19K02635による助成を受けた研究) 教育学科3年生を対象とした「教育演習」において試みた授業実践研究である。保育実践を観察し、記録・討議・考察するという一連の学習活動を通して、受講学生がいかに保育に対する理解を深めていくのか、「協同的な遊び」に対する捉え方の変容に焦点を当てて明らかにした。(1)「協同的な遊び」が創出される前提となる幼児同士の共通の体験や感動体験、(2)そこでの保育のねらいや教師の願い、(3)幼児同士の応答的な関わりや対話、教師と幼児との対話、教師と幼児で共に遊びの環境を創り出していく様相への気付き等、遊びの創出に至るまでの幼児の経験や複雑な保育の様相を可視化させる授業の有効性を示した。
5. 保育における施設設備のもつ可能性を切り拓いた「全国モデル幼稚園協議会」会員校の研究活動とその実践―1953年から1954年にかけての研究資料の検討―	単	2019年03月	『教育学研究紀要』第64巻 1-6頁 中国四国教育学会	1952年の「文部省建築モデル幼稚園」制度を受け創立された「全国モデル幼稚園協議会」会員校における研究活動及びその実践の特徴について、1953年から1954年にかけて作成された会員校の研究資料に基づいて検討することを目的とした。会員校における研究と実践の特徴は、設備のもつ意味を幼児が働きかける環境として捉え直した点にあった。その結果、「望ましい環境」の構成やその環境の構成を前提とした幼児に育みたい「望ましい経験」の解明に着手していくこととなった。本研究は、先行研究では十分に解明されるに至っていない、「保育要領」(1948)から「幼稚園教育要領」(1956)刊行へと至る時期の幼稚園教育の実態を紐解く上で示唆を与えるものである。
6. 学校教育法制定後の千葉師範学校附属幼稚園における「新保育」の試み(査読付論文)	単	2018年12月	『保育学研究』第56巻第3号 58-69頁 日本保育学会	学校教育法制定後の1947年に構想・実践化されるに至った千葉師範学校附属幼稚園における「新保育」の特質を、その当時に作成された実践資料に基づいて明らかにした。本研究の意義は次の3点にある。(1)これまでの研究では解明されてはこなかった、学校教育法制定後に見られた保育実践の特質を現存資料に基づいて明らかにした、(2)学校教育法の幼稚園の目規定に示された「適当な環境」の趣旨について、当時の保育者がいかに受け止めたのか、同園の研究・実践資料に基づいて解明した、(3)「誘導保育」の継承と発展という特質をもつ同園の「新保育」を事例として、戦前の実践からの継承・転換という連続的な視座から、先行研究で述べられてきた戦後日本の保育実践の特質を再考する余地があることを指摘した。
7. 保育の連続性を踏まえた「幼児教育指導計画」の作成過程とその指導方法―教育学科3年生の授業実践―	単	2018年08月	『関西教育学会年報』第42号 151-155頁 関西教育学会	教育学科3年生を対象とした授業における指導計画の作成過程を事例とし、指導計画作成に係る効果的な学習過程とその指導方法について検討していくことを目的とした。有効な指導方法として、(1)指導計画立案に至るまでの幼児の生活を踏まえて、幼児の経験やそれに対応した援助の方向性について予測する学習過程の構築、(2)幼児一人一人の「志向性」に配慮するという側面から、環境構成(教材を含む)や援助について考究する学習過程の構築、(3)保育の意図と幼児の実態とを重ね合わせながら活動や援助の方向性を見出せる学習過程の構築の3点が挙げられた。
8. 戦後教育改革期における「全国モデル幼稚園協議会」の結成と初期の活動	単	2018年03月	『教育学研究紀要』第63巻 37-42頁 中国四国教育学会	1952年の「文部省建築モデル幼稚園」制度を受けて創立された「全国モデル幼稚園協議会」結成の背景及びその結成当初の活動について明らかにしていくことを目的とした。同協議会における活動は、会員校だけでなく、幼稚園とその設置者、文部省とが一体となって進めていたものであった。会員校における結成当初の研究活動には、(1)幼児の生活する「場」として、施設・設備のありようを検討していこうとするもの、(2)施設・設備のみならず、保育備品、保育用具類、材料、動植物の飼育・栽培に至って研究されたものがあり、幼児の豊かな生活経験が生み出される「環境」という視座から施設・設備の可能性を検討しつつ保育内容の充実を図っていこうとする研究の萌芽が明らかとなった。
9. 戦後の徳島大学徳島師範学校附属幼稚園における「幼児の生活プラン」(1949)の特質(査読付論文)	単	2017年11月	『教育学研究ジャーナル』第21号 33-41頁 中国四国教育学会	小学校以降の学校段階におけるカリキュラムの考え方を適用した幼稚園カリキュラムの創出とその拡大という、「保育要領」刊行後の動向が指摘されるなか、本研究では、「保育要領」刊行翌年の1949年に、徳島大学徳島師範学校附属幼稚園より出版された「幼児の生活プラン」を、当時に作成された資料に基づいて検討した。同プランは、「保育要領」の根本精神とも合致する「合自然性」の教育観を底流とし、また、同要領に表された指導観を「環境による教育」の趣旨において明らかにした保育の計画であ

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
10. 協同的な学びを育む保育の創造－ 伝え合いを支える教師の援助と環 境構成－	共	2013年06月	『日本生活科・総合的 学習教育学会第22回全 国大会紀要』 93-115頁 日本生活科・総合的学 習教育学会	った。幼稚園教育独自の立場から作成された幼稚園 カリキュラムの実際とその特質を、カリキュラム編 成の根本原理に及んで解明した点に、本研究の意義 を見出すものである。 幼児の協同的な学びと育ち、協同的な学びを育む環 境構成及び教師の援助について、実践事例に基づい て検討した。幼児の協同的な学びと育ちについて、 安心度・夢中度・人のかかわり・イメージの共有 ・他者と共に遊びの目的創造・他者と共に遊びの目 的追求の6つの視点から明らかにした。そこでの環境 構成及び教師の援助については、幼児同士で試行錯誤 する・考え合う・言葉で伝え合うプロセスの創出と いう、3つの視点から明らかにした。 日本生活科・総合的学習教育学会指定研究（明石市 立大観幼稚園） （全23頁、第1章研究の概要、第2章研究の目的、第3 章研究の仮説、第4章研究の方法93-97頁、第5章研究 の内容2節実践事例2項5歳児の実践事例102-110頁、 第6章研究のまとめ111-115頁執筆）
11. 幼児教育における「協同的な学び 」を推進する教師の援助－幼稚園 5歳児クラスの事例にみる－ （査読付論文）	共	2012年03月	『同志社女子大学総合 文化研究所紀要』第29 巻 225-238頁 同志社女子大学総合文 化研究所	幼稚園5歳児クラスの遊びの中で捉えられた幼児の学 びをフレーベルとカッツの理論を援用した「学びの マトリックス」によって示し、「協同的な学び」が どのような体験であり、どのような幼児の学びによ って構成されているか、解明した。協同な学びを育 むに基盤には、幼児自身で探求し、創意工夫しなが ら遊びの目的を実現していくこと、忍耐強く試すこ と、課題を認識し、乗り越えようとする事等、カ ッツの示す学びの範疇の一つ「性向」を育んでいく プロセスが重要であるとした。また、そうした幼児 の自発性を尊重した保育の前提には、周到に準備さ れた教師の働き掛けがあることを明示した。 共著者：埋橋玲子、小尾麻希子
12. 仲間関係を深める戸外遊びにおけ る環境構成及び教師の援助	単	2006年11月	『兵庫教育大学附属幼 稚園研究紀要』第18集 兵庫教育大学附属幼稚 園編 8-16頁（第2章実 践事例及びその考察と して掲載）	幼稚園3・4・5歳児クラスにおける戸外遊びの実践事 例を分析した。幼児の仲間関係が深まる過程におけ る環境構成と教師の援助について、幼児が「自分の 居場所や基地をもって遊ぶ」「自然を肌で感じなが ら遊ぶ」「五感を通して感じ、気付いて遊ぶ」「開 放感を味わって遊ぶ」「なりきって遊ぶ」「全身を使 ったルールのある遊び」「道具や用具を使った集団 遊び」の7つの視点から明らかにした。
13. 幼児の生活を充実させる保育環境 を考える－仲間関係を深める戸外 遊びに焦点を当てて－	共	2006年11月	『兵庫教育大学附属幼 稚園研究紀要』第18集 兵庫教育大学附属幼稚 園編 分担執筆1-8頁、8 -16頁、48-52頁執筆	「幼児の生活を充実させる保育環境を考える－仲間 関係を深める戸外遊びに焦点を当てて－」をテーマ とし、幼児の個の充実、仲間関係の深まり、その環 境構成や教師の援助の在り方について実践事例を示 しながら考察した。研究の概要1-8頁、3歳児の実践 事例及び考察8-16頁、研究の成果と課題48-52頁を執 筆し、各学年の幼児の発達に応じた環境構成及び教 師の援助の在り方について示した。 平成18年度兵庫教育大学附属幼稚園教員による共著
14. 一人一人の幼児が友達と共に「充 実感」を味わって遊ぶための保育 環境を考える－「うれしのタイム 」の環境構成及び教師の援助の変 化を読み取ることを通して－	共	2006年03月	『兵庫教育大学附属幼 稚園研究紀要』第17集 II 兵庫教育大学附属幼稚 園編 分担執筆32-35頁 、41-55頁、69-77頁、8 1頁執筆	各学年の幼児が味わう充実感及び充実感に繋がる過 程について、実践事例を示しながら考察した。「充 実感を捉える視点」は、本園の教育課程に示された 幼児の発達の姿に即応してまとめ、一覧表に示した 。また、「充実感に繋がる過程」に関わる教師の役 割を、幼児が「出会う」環境の創造、環境の再構成 、教師の幼児観・教材観・指導感の変容という3つの 視点から考察した。 第1章研究の概要32-35頁、第2章2節4歳児の保育実践 より41-55頁、第3章研究のまとめ69-77頁、第4章研 究の成果と課題81頁、研究の概要32-35頁、4歳児の 実践事例、研究のまとめ69-77頁、研究の成果と課題 81頁を執筆した。 平成17年度兵庫教育大学附属幼稚園教員による共著
15. 幼小連携教育－豊かに「かかわり 」「気付き」「表現」する子ども －	共	2006年03月	『兵庫教育大学附属幼 稚園研究紀要』第17集 I 兵庫教育大学附属幼稚 園編 分担執筆13-18頁 、19-21頁執筆	兵庫教育大学附属幼稚園と同附属小学校間で研究、 実践を行った幼小連携教育について述べた。めざす 子ども像を、豊かに「かかわり」「気付き」「表現 する」子どもとし、幼小交流実践における子どもの 学びについて実践事例を通して示し、幼小連携教育 の展望及び幼小連携教育を視野に入れた附属幼稚園 のカリキュラムの再編成について考察した。第2章研 究の成果及び今後の展望、第3節5歳児と1年生との交 流実践13-18頁、第4節交流実践の展望19-21頁を執筆 した。 平成17年度兵庫教育大学附属幼稚園教員による共著
16. 幼小連携教育の展望－交流実践・ 教師の連携・カリキュラムの接続 －	単	2006年03月	『兵庫教育大学附属幼 稚園研究紀要』第17集 I 兵庫教育大学附属幼稚 園編 19-21頁（第2章研	兵庫教育大学附属幼稚園と同附属小学校間で研究、 実践を行った幼小連携教育に基づき、幼小連携教育 の展望及び幼小連携教育を視野に入れた附属幼稚園 のカリキュラムの再編成について考察した。幼小連 携教育の展望を、教師の連携、交流実践、カリキュ

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
17. 「好きな遊び」の環境構成と教師の援助の変化を読み取る視点	単	2006年03月	究の成果及び今後の展望として掲載) 『兵庫教育大学附属幼稚園研究紀要』第17集Ⅱ 兵庫教育大学附属幼稚園編 69-77頁 (第3章研究のまとめとして掲載)	ラムの接続の3点から論じた。 兵庫教育大学附属幼稚園の教育課程に示された「幼児の発達」に即応して幼児の「充実感」について示した。さらに、環境構成と教師の援助の変化を読み取る視点を「幼児が出会う環境を創造する」「幼児の姿に応じて環境を再構成する」「幼児観・教材観・指導観を幼児の姿に即応して変容させる」の3つから示した。
その他				
1. 学会ゲストスピーカー				
2. 学会発表				
1. 1950年代のお茶の水女子大学附属幼稚園における保育計画と保育実践—『幼児の教育』誌の検討を中心に—	単	2020年08月24日～28日	日本教育学会第79回大会 (Web開催) 日本教育学会第79回大会発表要旨集	本研究は、戦後のお茶の水女子大学附属幼稚園において作成された保育計画及びその保育の実践について、『幼児の教育』誌に寄稿された同園教諭らの報告を中心に検討して明らかにしていくことを目的とした。 (JSPS科研費JP19K02635による助成を受けた研究)
2. 保育専攻学生のカリキュラム・マネジメントに対する理解と意欲—カリキュラム・マネジメントの講義後の評価—	共	2020年03月01日	日本保育者養成教育学会第4回研究大会 (発表認定) 日本保育者養成教育学会第4回研究大会発表要旨集65頁	4年制A大学の保育者養成課程科目「幼児教育・保育課程論」受講者3年生を対象としたアンケートに基づいて、カリキュラム・マネジメントに関する保育者養成課程学生の「理解」の内容と「意欲」の程度について明らかにすることを目的とした研究である。 発表者：若山育代、後田紀子、小尾麻希子、桐川敦子、佐藤有香、深家智子、目良秋子、若尾良徳 (JSPS科研費JP19K02580による助成を受けた研究)
3. 「保育内容総論」の授業内容と指導法に関する研究(1) —「環境」と「遊び」に着目して—	単	2019年11月16日	関西教育学会第71回大会 (於：関西学院大学) 関西教育学会第71回大会発表要旨集55頁	「保育内容総論」の授業実践に基づいて、「幼稚園教育要領」に幼稚園教育の基本として示されている「環境を通して行う」こと及び遊びを通じた総合的な指導に関する有効な授業内容と指導法について検討することを目的とした。
4. 戦後教育改革期IFELの示唆した幼稚園カリキュラム開発—幼稚園教育班・幼年教育班講習内容の検討を中心に—	単	2019年08月07日	日本教育学会第78回大会 (於：学習院大学) 日本教育学会第78回大会発表要旨集147-148頁	戦後教育改革期における「教育指導者講習会」(IFE L) がどのような幼稚園カリキュラムの開発を目指したのか、第5期開催の幼稚園教育班・第6期開催の幼年教育班の講習内容に焦点を当てて明らかにすることを目的とした。 (JSPS科研費JP19K02635による助成を受けた研究)
5. 戦後日本の幼稚園カリキュラム成立史に関する研究—「望ましい経験」の選定を中心に—	単	2019年05月04日	日本保育学会第72回大会 (於：大妻女子大学) 日本保育学会第72回大会発表要旨集309-310頁	1956年の千葉大学教育学部附属幼稚園において作成された「幼稚園教育要領」に基づいた「絵画製作」の望ましい経験の基底」を取り上げ、その望ましい経験がどのような研究を経て選定されたのか、当時の資料に基づいて明らかにすることを目的とした。その結果、(1)教師の指導の方向性を打ち出した研究から脱却し、幼児の経験に主眼を置いて作成された、(2)「望ましい経験」の具体を幼児の実態調査を実施しつつ、各年齢の幼児の発達段階に応じて見出していた、(3)当時の研究者から意見が出されていた保育内容の系統性・組織性というよりも、具体的指導目標(教師の指導の方向性)を問う研究が進められていた、(4)発達段階の分類と小学校学習指導要領各教科編の指導目標が参照されたことが明らかにされた。 (JSPS科研費JP19K02635による助成を受けた研究)
6. 保育者養成課程の授業展開における課題と工夫 (2) —自由記述に見られるアクティブ・ラーニング—	共	2019年01月14日	平成30年度保育教諭養成課程研究会研究大会 (於：国立オリンピック記念青少年センター) 保育者養成課程研究会発表要旨集	保育者養成校の教員を対象とした質問紙調査に基づき、授業の工夫や展開方法の実態について明らかにすることを目的とした。その結果、(1)一般的なアクティブ・ラーニング、(2)対話的学習、(3)体験活動、(4)保育実践事例の活用・提示、(5)授業内容理解の補完、(6)学びの枠組みの提示、(7)模擬保育、(8)他分野・他学年交流、(9)その他(時事・社会の動向を取り入れる等)の9つのカテゴリーが導き出された。 発表者：目良秋子、後田紀子、小尾麻希子、桐川敦子、佐藤有香、深家智子、若尾良徳、若山育代
7. 保育者養成課程の授業展開における課題と工夫 (1) —自由記述に見られる「困っていること」—	共	2019年01月14日	平成30年度保育教諭養成課程研究会研究大会 (於：国立オリンピック記念青少年センター) 保育者養成課程研究会発表要旨集	保育者養成校の教員を対象とした質問紙調査に基づき、授業を展開する際の「困っていること」の実態を明らかにすることを目的とした。その結果、「困っていること」の実態として、(1)指導法に関する課題、(2)学生の資質・能力に関する課題、(3)制度に関する課題、(4)養成校の環境、(5)大学内での連携、(6)実践の場との連携の6つのカテゴリーが導き出された。 発表者：桐川敦子、後田紀子、小尾麻希子、佐藤有香、深家智子、目良秋子、若尾良徳、若山育代
8. 継続的な保育観察に基づいた学生	単	2018年11月1	関西教育学会第70回大	教育学科3年生を対象とした授業「教育演習」におけ

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
の学びと学びの可能性－「協同的な遊び」に対する捉え方の変容を中心に－		8日	会（於：関西福祉科学大学） 関西教育学会第70回大会発表要旨集録61頁	る実践研究である。保育実践を観察し、記録・討議・考察するという一連の学習活動を通して、受講学生がいかに保育に対する理解を深めていくのか、「協同的な遊び」に対する捉え方の変容に焦点を当てて考察した。(1)「協同的な遊び」が創出される前提となる幼児同士の共通の体験や感動体験、(2)そこでの保育のねらいや教師の願い、(3)幼児同士の応答的な関わりや対話、教師と幼児との対話、教師と幼児と共に遊びの環境を創り出していく様相への気付きなど、遊びの創出に至るまでの幼児の経験や複雑な保育の様相を可視化させ得る授業の有効性を示した。
9. 戦後日本の幼稚園において受容された保育における生活の概念－東京都公立幼稚園の実践を手がかりに－	単	2018年05月12日	日本保育学会第71回大会（於：宮城学院女子大学） 日本保育学会第71回大会発表要旨集録278頁	戦後日本の幼稚園において作成されたカリキュラムの特質を捉える手がかりとして、東京都公立幼稚園の研究の動向やカリキュラムなどの実践的資料に表された「生活」の概念について検討した。その結果、(1)保育内容は幼児を取り巻く郷土や家庭生活から取り上げること、(2)生活の記録は幼児一人一人の興味や関心、理解、表現等の観点から示すこと、(3)幼児一人一人の「個」が生きる保育形態については「分團保育」の側面から検討していくこと、これら3つの側面から、幼児の「生活」に立脚したカリキュラムの作成に着手されたことが明らかとなった。
10. 保育内容「環境」を核とした幼児教育指導計画の作成及び模擬保育の効果－教育学科3年生の授業「幼児教育実践演習」の試み－	単	2018年03月04日	日本保育者養成教育学会第2回研究大会（於：共立女子大学） 日本保育者養成教育学会第2回研究大会発表要旨集録78頁	こま遊びやお正月をトピックとしたごっこ遊びなど、保育内容「環境」を核とした指導計画の作成及び模擬保育の効果について、学生による振り返り記録と討議内容に基づいて明らかにすることを目的とした。本授業の特質は、長期の指導計画に掲げた「ねらい及び内容」を日の指導計画へと具体化する過程を位置づけた点にある。その結果、指導計画作成の意義として、(1)日の指導計画へと位置づけられる幼児の経験内容や活動を連続的な「幼児の生活」を踏まえて考えた点、(2)幼児自身で学びを深いものとしていく視点から立案、(3)幼児の活動の根本にある保育のねらいに遡って立案したことの3点が挙げられた。模擬保育の効果として、(1)保育の意図の明確化、(2)保育の意図と幼児の実態（学生の状況）を重ね合わせながら実践することへの気づきの2点が挙げられた。
11. 保育の連続性を踏まえた「幼児教育指導計画」の作成過程とその指導方法－教育学科3年生の授業実践－	単	2017年11月1日	関西教育学会第69回大会（於：大阪市立大学） 関西教育学会第69回大会発表要旨集録65頁	教育学科3年生を対象とした授業における指導計画の作成過程を事例とし、「幼児教育指導計画」作成に係る効果的な学習過程とその指導方法について検討していくことを目的とした。有効な指導方法として明らかとなったのは、(1)指導計画立案に至るまでの幼児の生活を踏まえて、幼児の経験やそれに対応した援助の方向性などについて予測する学習過程の構築、(2)幼児一人一人の「志向性」に応えるという側面から、環境構成（教材を含む）や援助について考究していく学習過程の構築、(3)保育の意図と幼児の実態とを重ね合わせながら活動や援助の方向性を見出せる学習過程の構築の3点である。
12. 戦後日本の師範学校附属幼稚園において推進された新しい保育の特質－保育計画論に焦点を当てて－	単	2017年06月24日	日本カリキュラム学会第28回大会（於：岡山大学） 日本カリキュラム学会第28回大会発表要旨集録67-68頁	1947年から1949年にかけて作成された、千葉大学千葉師範学校附属幼稚園及び徳島大学徳島師範学校附属幼稚園の実践的資料に基づいて検討した。それら資料の中に示された保育計画論において、「環境」という視点から戦後保育の方向性が説かれていることを明らかにした。
13. 千葉大学教育学部附属幼稚園における保育計画論の特質－「保育要領」刊行後の幼稚園資料に基づいて－	単	2017年05月20日	日本保育学会第70回大会（於：川崎医療福祉大学） 日本保育学会第70回大会発表要旨集録261頁	千葉大学教育学部附属幼稚園において作成された昭和25年度・26年度の幼稚園資料に基づき、同園保育計画論の特質を明らかにすることを目的とした。25年度の「保育案」では、題目（題材）の選択に主眼が置かれた。26年度の「指導案」では、幼児の発達（主として社会性・ことば）に主眼を置いた目標の具体化が図られた。筆者のこれまでの研究上に提示した昭和22年度の同園「新保育」の趣旨、すなわち、環境による教育の趣旨を継承しつつ、教材観の明示及び目標の構造化を図った点に、その時代的特質を見出すものである。
14. “Starting Strong III” が示唆する幼児教育カリキュラムにおける「学びの領域」の検討－新しい能力観及び「幼稚園教育要領」との比較を通して－	単	2015年07月05日	日本カリキュラム学会第26回大会（於：昭和女子大学） 日本カリキュラム学会第26回大会発表要旨集録147-148頁	OECDの調査報告書“Starting Strong III”において示唆された幼児教育カリキュラムにおける「学びの領域」と日本の「幼稚園教育要領」に示されている5領域とを比較検討した。前者は、「探究」「遊び」「子どもの相互作用」の3つの側面からカリキュラムに統合される領域が示唆され、探究の領域では身に付けていくことが難しいと捉えられた、いわゆる対人関係のスキルを獲得していく手段として、「遊び」と「子どもの相互作用」を促進する領域横断的な学習を位置づけていることを明らかにした。この点は、豊かな遊びと子どもの相互作用、協同を基盤と

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
15. 倉橋惣三の教育思想と実践とをつなぐ保育の教育観	単	2015年05月	日本保育学会第68回大会（於：相山女学園大学） 日本保育学会第68回大会発表抄録集発表ID717	して、各領域に掲げたねらいを達成していくことを根本に据えた「幼稚園教育要領」とは相違するものであること、さらには、前者が個人の学びをいかに育んでいくのかに焦点を当てているのに対し、後者は個と集団の育ちの関係性を重視した学びに焦点を当てていることを明らかにした。 倉橋惣三の保育論を真に解釈し、実践したと評される人物、岡山県師範学校附属幼稚園主任保母岡政の教育観及び明治後期から昭和初期における同附属幼稚園の実践について分析した。岡の教育観は、倉橋の提唱した「誘導保育」論の二つの側面、すなわち幼児の自発性の尊重と目的活動への誘導の両側面に関する知識と理解に基づいて形成されているものであることを明らかにした。
16. 「誘導保育」における生活の系統化と統合化—東京女高師附属幼稚園「保母の記録」に基づいて—	単	2014年11月	日本乳幼児教育学会第24回大会（於：広島大学） 日本乳幼児教育学会第24回大会研究発表論文集108-109頁	東京女子高等師範学校附属幼稚園保母徳久孝子による誘導保育の記録「わたくし達の自動車」（1932）及び自由遊びの記録「五月の一週間」所収「山の組」（1932）を検討した。徳久の記録した前掲2編の実践記録をつないで読み取り、自由遊びと学級の活動の循環の中で、幼児の遊び（生活）が創り出されていく様子を明らかにした。幼児の生活に系統性が生まれ、生活が統合されていくという倉橋惣三の提唱した誘導保育の趣旨と合致する点を指摘した。
17. 仲間との「つながり」を育む保育プロセス—ごっこ遊びの生成プロセスを通して—	単	2014年05月	日本保育学会第67回大会（於：大阪総合保育大学） 日本保育学会第67回大会発表要旨集198頁	幼稚園4歳児クラスにおける幼児のごっこ遊びの生成プロセスを分析することから、幼児が仲間とつながる要因と保育プロセスについて考察した。仲間とつながる要因として、「保育者」「イメージ」「言葉」「動き」があげられることを実践記録より分析し、特に、保育者は「動き」を伴った幼児の表現に着目し、幼児同士をつなぐ役割を担っていることを明らかにした。
18. 協同的な学びを育む保育プロセスⅡ—カッツの理論を援用して—	単	2013年05月	日本保育学会第66回大会（於：中村学園大学） 日本保育学会第66回大会発表要旨集190頁	先行研究で得られたデータに加え、より長期にわたって保育記録を収集し、幼児の協同的な学びの質的变化を捉えた。協同的な学びの質的变化は、共有する遊びの目的が創り出される、目的達成に向かった知識や技能を伝え合う、遊びのイメージや遊び方を共有する、課題を共有する、課題を解決するプロセス変化として捉えられることを明らかにした。
19. 協同的な学びを育む保育プロセスに関する考察—カッツの理論を援用した保育記録の分析を通して—	単	2012年12月	日本乳幼児教育学会第22回大会（於：武庫川女子大学） 日本乳幼児教育学会第22回大会研究発表論文集204-205頁	幼稚園5歳児クラスの幼児の遊びに着目し、遊びの中で捉えられた幼児の学びをカッツの示す4つの学びの範疇「知識」「技能」「感情」「性向」から分析し、それらの学びがどのような幼児の協同する姿、協同的な学びと繋がっていくのか、また、教師の環境構成、援助とどのように繋がっているのかを探った。協同的な学びを育む保育プロセスには、「感情」に下支えされた「知識」「技能」の習得、「性向」の高まり等、幼児の学びの様相に応じた教師の働き掛けが重要であること、また、幼児が他者の学びについて知ったり、関係をつくったりする体験の場が重要であることを明らかにした。
20. 保育者の職能向上に繋がる研修Ⅰ—実践知の可視化を求めて—	共	2012年05月	日本保育学会第65回大会（於：東京家政大学） 日本保育学会第65回大会発表要旨集752頁	保育者の職能向上に繋がる自主研修会を求め、自主研究会で実践を語り合うこと及びデューイの教育理論を援用しなら考察することを試みた。筆者は、デューイの述べる「子どもの中にある衝動」に着目し、衝動的表現を意図的表現に高めていく保育の試みについて自主研修会で語り、研修を進めた経緯について発表した。 発表者：多田琴子、小尾麻希子、小林みどり、坂根早織、大西雅裕
21. 保育の質の向上—「風通しを良くする」観点から—保育現場のクリティカル・シンキング（批判的思考）—	共	2012年05月	日本保育学会第65回大会自主シンポジウム（於：東京家政大学） 日本保育学会第65回大会発表要旨集140頁	実践現場において、保育の質の向上を図るには、研修や保育評価の場を園の内部に留めるのではなく、何らかの方法で外部との交流をもつことの重要性について提案した。教師間で共有できる「評価の規準」として、後掲の「チェック・システム1・2・3」をの活用し、子どもの育ちや課題、それらに応じた保育構築について考え合う研修の重要性について発表した。 発表者：埋橋玲子、小尾麻希子、武藤朱美、山本真理子
22. 子どもの育ちがみえる保育評価の試みⅢ—ごっこ遊びへの参画スタイルの変容に着目して—	共	2012年05月	日本保育学会第65回大会（於：東京家政大学） 日本保育学会第65回大会発表要旨集184頁	先行研究で用いた「子どものごっこ遊びへの参画スタイルに関するチェック・システム」「教師の関わりに関するチェック・システム」に加え、幼児の姿を12の視点から分析した「集団の育ちに関するチェック・システム」を開発した。その結果、これら3つのチェック・システムを活用することにより、「子どもの遊びを見る視点の明確化—保育を構築する視点の明確化—集団の育ちによって転換していく保育のねらい」というサイクルの中で教師の具体的な指

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
23. 協同的な学びを育む保育の試みⅠ－5歳児の遊びを通して－	共	2011年12月	日本乳幼児教育学会第21回大会（於：東京成徳大学） 日本乳幼児教育学会第21回大会研究発表論文集144-145頁	導計画作成及び働き掛けが生み出されることを明らかにした。 発表者：小尾麻希子、埋橋玲子 幼稚園5歳児の遊びを観察し、実践記録を分析し、協同的な学びを育む保育プロセスについて「幼児同士で遊びを創り出すプロセス」「環境が創造されるプロセス」「教師の働き掛けが行われるプロセス」の3点から考察した。その結果、幼児の姿、教師の環境構成、援助は「遊びが始まる時」「遊びが展開していく時」「遊びが変化していく時」「変化した遊びを継続していく時」といった4つのプロセスに応じて変化していることを見出し、幼児の遊びの中の学びに応じて、保育のねらい、環境構成、援助を転換していく教師の専門的な役割について言及した。 発表者：小尾麻希子、多田琴子
24. 園内研修または自己評価のオリジナリティを求めて	共	2011年12月	日本乳幼児教育学会第21回大会ラウンド・テーブル（於：東京成徳大学） 日本乳幼児教育学会第21回大会研究発表論文集40-41頁	保育の質の向上に繋がるオリジナルな園内研修や自己評価について協議した。筆者は、保育現場において継続しやすい保育評価として、前掲の「チェック・システム1・2・3」を活用した自園の取組を紹介した。 発表者：埋橋玲子、小尾麻希子、安達謙、島村和宏、丸山和彦
25. 子どもの育ちがみえる保育評価の試みⅡ－ごっこ遊びへの参画スタイルの変容に着目して－	共	2011年05月	日本保育学会第64回大会（於：玉川大学） 日本保育学会第64回大会発表要旨集13頁	先行研究で用いた「子どものごっこ遊びへの参画スタイルに関するチェック・システム」に加え、教師の関わりを37の視点から分析した「教師の関わりに関するチェック・システム」を開発した。これら2つのチェック・システムを活用することにより、保育の方向性や意図が整理され、子どもの育ちに応じた教師の関わりについて見直す視点が得られたことに言及した。 発表者：小尾麻希子、埋橋玲子
26. 子どもの育ちがみえる保育評価の試み－ごっこ遊びへの参画スタイルの変容に着目して－	共	2010年05月	日本保育学会第63回大会（於：松山東雲女子大学） 日本保育学会第63回大会発表要旨集64頁	幼児のごっこ遊びへの参画スタイルに着目し、保育実践を保育の「構造評価」「プロセス評価」「アウトカム評価」の3つの保育評価方法を用いて分析した。プロセス評価で用いる「子どものごっこ遊びへの参画スタイルに関するチェック・システム」を創出し、幼児の姿を16の視点から分析した。オリジナルのチェック・システムを活用して評価することにより、子どもの育つ方向が見えやすくなり、子ども一人一人に必要な教師の関わりについて考える視点が構築されると結論づけた。 発表者：小尾麻希子、埋橋玲子
3. 総説				
4. 芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
1. 豊かな感性と表現を育む保育の創造	共	2019年03月	幼保連携型認定こども園夢 研究紀要第1集	幼保連携型認定こども園の教員と共同で取り組んだ実践研究の成果を著した。0～2歳児クラスでは子どもの心の安定と表現の芽生えに、3～5歳児クラスでは自己表現と幼児同士で創り出す力に焦点を当て、そこでの子どもの育ちと保育者の関わりについて、「エピソード記録」及び「遊びの構想図・展開図」に基づいて提示した。 2018年度幼保連携型認定こども園夢教員・小尾麻希子による共著 （共同研究により執筆箇所抽出不可能）（全89頁）
2. 研究発表『主体的・対話的で深い学びを育む保育実践の探究－実践映像「3年間の保育記録」を通して－』	共	2019年02月2日	武庫川女子大学教育研究会 第36回研究発表会発表要旨集15-16頁	「教育演習」で取り組んだ研究の成果を、平成30年度武庫川女子大学教育研究会研究発表会において発表（ゼミ生による発表）。保育実践映像「3年間の保育記録」の視聴・分析・討議を通して、「主体的・対話的で深い学び」の過程がどのような実践の過程に育まれていくのかを明らかにした。
3. 武庫川女子大学附属幼稚園研究紀要第1集「平成30年度 教育課程・指導計画」	共	2018年03月	武庫川女子大学附属幼稚園 武庫川女子大学附属幼稚園研究紀要第1集	武庫川女子大学附属幼稚園教員と筆者との共同研究において作成した教育課程・指導計画集。平成29年3月告示「幼稚園教育要領」の趣旨を踏まえ、「幼稚園教育において育みたい資質・能力」の観点から「ねらい及び内容」等を示した。 執筆：大江嘉津子、廣崎有美、塩井敬子、荒牧幸子、隈部磨利依、若山飛鳥、西森遙、小尾麻希子（A3版 全25頁）
4. 研究発表『継続的幼稚園観察に基づく実践研究の試み(2)－保育実践「にんじやのもりであそぼう」における学びの過程と保育者の役割－』	共	2018年02月23日	武庫川女子大学教育研究会 第35回研究発表会発表要旨集17-18頁	「教育演習」で取り組んだ研究の成果を、平成29年度武庫川女子大学教育研究会研究発表会において発表した（ゼミ生による発表）。保育実践「にんじやのもりであそぼう」への参与観察を通して、幼児同士で織り成す学びの過程及びそこでの保育者の役割

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
5. 研究発表『継続的幼稚園観察から捉えた「協同的な学び」を育む保育の構造』	共	2017年02月24日	武庫川女子大学教育研究会 第34回研究発表会発表 要旨集15-16頁	<p>について明らかにした。複雑な様相を織りなす学びの過程を、「遊びの創出」「遊びへの没頭」「遊びの振り返り」の3つの視点から整理して明示した点に特徴をもつ研究である。</p> <p>「教育演習」で取り組んだ研究の成果を、平成28年度武庫川女子大学教育研究会発表会において発表した（ゼミ生による発表）。市立幼稚園における継続的な保育観察に基づいて、幼児同士の「協同的な学び」が育まれる過程を明らかにした研究である。また、複雑な様相を織りなすその保育の構造を、「保育構造図」に表して提示した。</p>
6. 兵庫教育大学教材文化資料館「3歳児保育指導案」（再掲）	単	2007年03月	兵庫教育大学教材文化資料館所蔵	平成18年度兵庫教育大学附属幼稚園3歳児学級担任時に作成・実践した指導案2編を兵庫教育大学教材文化資料館にて所蔵・公開している。
7. 文部科学省研究開発実施報告書「親育てプログラムとその評価システムの開発による幼稚園の教育課程及び地域子育てに関する開発研究」	共	2007年03月	文部科学省 兵庫教育大学附属幼稚園 文部科学省研究開発実施報告書	文部科学省研究開発指定校として、幼稚園における「親育てプログラムとその評価システム」を開発した。（兵庫教育大学附属幼稚園） （全81頁、第2章研究開発の内容第1節「親育てプログラム」の開発・試行、第2節研究の結果14-40頁、第3章今後の研究開発の課題41頁執筆）
8. 平成18年度版「3歳児から5歳児の教育課程・指導計画」（再掲）	共	2007年03月	兵庫教育大学附属幼稚園	平成18年度兵庫教育大学附属幼稚園における3歳児から5歳児の教育課程・指導計画を全52頁に著している。3歳児の年間指導計画、月別指導計画（4月～3月）、週指導計画1編を執筆した。 平成18年度兵庫教育大学附属幼稚園教員による共著（全52頁、第1章9節年間指導計画（3歳児）6-7頁、第2章指導計画第1節月別指導計画（3歳児）12-22頁、2節週指導計画（3歳児）44頁執筆）
9. 研究報告書・指導案集「幼児の生活を充実させる保育環境を考える－仲間関係を深める戸外遊びに焦点を当てて－」	共	2006年11月	平成18年度兵庫教育大学附属幼稚園研究発表会研究報告書・指導案集 兵庫教育大学附属幼稚園	平成18年度兵庫教育大学附属幼稚園研究発表会において行われた研究経過報告及び公開保育指導案を掲載したものである。研究経過報告書、3歳児11月の指導計画、11月第2週指導計画、公開保育指導案を執筆した。 研究テーマを「幼児の生活を充実させる保育環境を考える－仲間関係を深める戸外遊びに焦点を当てて－として進めたその研究と実践の詳細は、前掲の「兵庫教育大学附属幼稚園研究紀要第18集」を参照。平成18年度兵庫教育大学附属幼稚園教員による共著（全48頁、研究経過報告4-22頁、3歳児11月指導計画24頁、3歳児もも組1月第2週指導計画28頁、公開保育指導案29-31頁執筆）
10. 平成17年度版「3歳児から5歳児の教育課程・指導計画」（再掲）	共	2006年03月	兵庫教育大学附属幼稚園	平成17年度兵庫教育大学附属幼稚園における3歳児から5歳児の教育課程・指導計画を全52頁に著している。4歳児の年間指導計画、月別指導計画（4月～3月）、週指導計画1編を執筆した。 平成17年度兵庫教育大学附属幼稚園教員による共著（全52頁、第1章9節年間指導計画（4歳児）8-9頁、第2章指導計画第1節月別指導計画（4歳児）23-33頁、2節週指導計画（4歳児）45頁執筆）
11. 研究報告書・指導案集『一人一人の幼児が友達と共に「充実感」を味わって遊ぶための保育環境を考える』	共	2006年01月	平成17年度兵庫教育大学附属幼稚園研究発表会研究報告書・指導案集 兵庫教育大学附属幼稚園	平成17年度兵庫教育大学附属幼稚園研究発表会において行われた研究経過報告及び公開保育指導案を掲載したものである。研究経過報告書、4歳児1月の指導計画、1月第3週指導計画、公開保育指導案を執筆した。 研究テーマを『一人一人の幼児が友達と共に「充実感」を味わって遊ぶための保育環境を考える』として進めたその研究と実践の詳細は、前掲の「兵庫教育大学附属幼稚園研究紀要第17集Ⅱ」を参照。平成17年度兵庫教育大学附属幼稚園教員による共著（全42頁、研究経過報告4-16頁、4歳児1月指導計画31頁、4歳児ひまわり組1月第3週指導計画33頁、公開保育指導案34-36頁執筆）
12. 平成16年度版「3歳児から5歳児の教育課程・指導計画」（再掲）	共	2005年03月	兵庫教育大学附属幼稚園	平成16年度兵庫教育大学附属幼稚園における3歳児から5歳児の教育課程・指導計画を全52頁に著している。5歳児の年間指導計画、月別指導計画（4月～3月）、週指導計画1編を執筆した。 平成16年度兵庫教育大学附属幼稚園教員による共著（全52頁、第1章9節年間指導計画（5歳児）10-11頁、第2章指導計画第1節月別指導計画（5歳児）34-44頁、2節週指導計画（5歳児）46頁執筆）
13. 研究報告書・指導案集『幼小連携教育－豊かに「かかわり」「気付き」「表現」する子ども－』	共	2005年01月	平成16年度兵庫教育大学附属幼稚園研究発表会研究報告書・指導案集 兵庫教育大学附属幼稚園	平成16年度兵庫教育大学附属幼稚園研究発表会において行われた研究経過報告及び公開保育指導案を掲載したものである。研究経過報告書、5歳児1月の指導計画、1月第3週指導計画、公開保育指導案を執筆した。 研究テーマを『幼小連携教育－豊かに「かかわり」「気付き」「表現」する子ども－』として進めたそ

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
14. 平成16年度文部科学省「幼稚園教育課程協議会」中央協議会研究報告書「感じたこと、考えたことを音や動きで表現したり、自由にかいたりつくったりするようになるための物的・空間的環境の構成」	単	2004年11月	平成16年度文部科学省「幼稚園教育課程協議会」中央協議会「教育課程協議会研究成果の要旨集」	の研究と実践の詳細は、前掲の「兵庫教育大学附属幼稚園研究紀要第17集I」参照。 平成16年度兵庫教育大学附属幼稚園教員による共著（全46頁、研究経過報告4-20頁、5歳児1月指導計画41頁、5歳児すみれ組1月第3週指導計画43頁、公開保育指導案44-46頁執筆） 平成16年度文部科学省「幼稚園教育課程協議会」中央協議会における発表の要旨を掲載したものである。協議主題C「感じたこと、考えたことを音や動きで表現したり、自由にかいたりつくったりするようになるためには、どのような物的・空間的環境の構成が必要か」について、幼小連携教育で進めている実践事例に基づいて発表した。物的環境の構成について、かく場所の魅力、開放感を味わってかくこと、かいたものを使って遊ぶ楽しさ、かく場所に適した材料、人とのかかわりによって豊かになるイメージと心の揺れ動きの観点から示した。（124-125頁執筆）
6. 研究費の取得状況				
1. 戦後日本の幼稚園カリキュラム成立史に関する実証研究—国立大学附属幼稚園を中心に—	単	2019年04月～2024年03月	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	研究代表者：小尾麻希子
2. カリキュラム・マネジメントに関する保育専攻学生の専門的技術と意欲的態度の育成	共	2019年04月～2022年03月	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	研究代表者：若山育代 研究分担者：入江良英、後田紀子、小尾麻希子、桐川教子、佐藤有香、新家智子、目良秋子、若尾良徳
3. 学校教育法制定後の千葉師範学校附属幼稚園における「新保育」の試み	単	2018年度	2018年度 武庫川女子大学論文投稿助成	日本保育学会誌『保育学研究』第56巻3号掲載論文

学会及び社会における活動等

年月日	事項
1. 2017年09月～現在	日本保育者養成教育学会
2. 2017年04月～現在	保育教諭養成課程研究会（2017～）日本乳幼児教育・保育者養成学会（2020～）（授業方法・授業展開部会所属）
3. 2016年01月～現在	幼児教育史学会
4. 2015年01月～現在	日本カリキュラム学会
5. 2014年04月～現在	日本教育学会
6. 2014年04月～現在	国際幼児教育学会
7. 2010年04月～現在	日本乳幼児教育学会
8. 2000年04月～現在	日本保育学会